

I まちづくりコンセプト編



1. まちのコンセプト

1-1. コンセプト

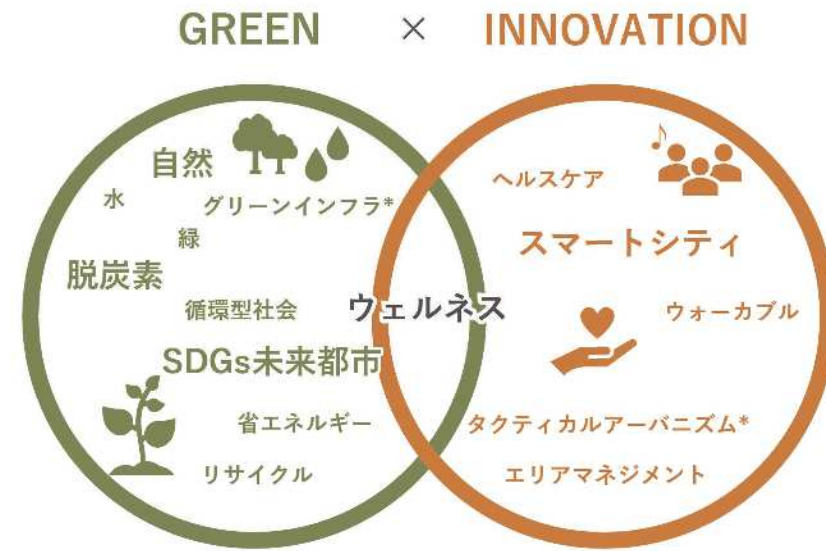
グリーン × イノベーション
GREEN × INNOVATION 深沢
 ～地球の未来を守るための鎌倉深沢の新たな挑戦～

鎌倉は歴史ある自然や緑あふれる環境を、どこよりも大切に育んできた都市です。

鎌倉市民の意識は高く、環境配慮型のまちづくりやゼロウェイストを目標とした循環型社会*形成への挑戦など、自然や環境を守ることに市民と行政が一丸となって取り組んできました。

これから進める深沢のまちづくりは、今までの鎌倉の取組をさらにパワーアップさせ、新たな技術を積極的に取り入れ、多種多様な人々が深沢に集い、活動することで新しいイノベーションを生み出し、今までにない発想で、自然や緑、地球を守るための課題解決につながるまちを創り上げ、まちづくりのテーマである『ウェルネス』を実現します。

深沢地区で生み出すイノベーションが少しずつ広がり、日本、そして世界の課題解決につながるエネルギーを持ったまちを目指します。



上図はイメージであり、建物等の具体的な計画を示すものではありません。今後の検討によってイメージは変更となる可能性があります。

*循環型社会: 廃棄物等の発生抑制や循環資源の循環的な利用、適正な処分が確保されることで、環境への負荷ができる限り低減される社会。

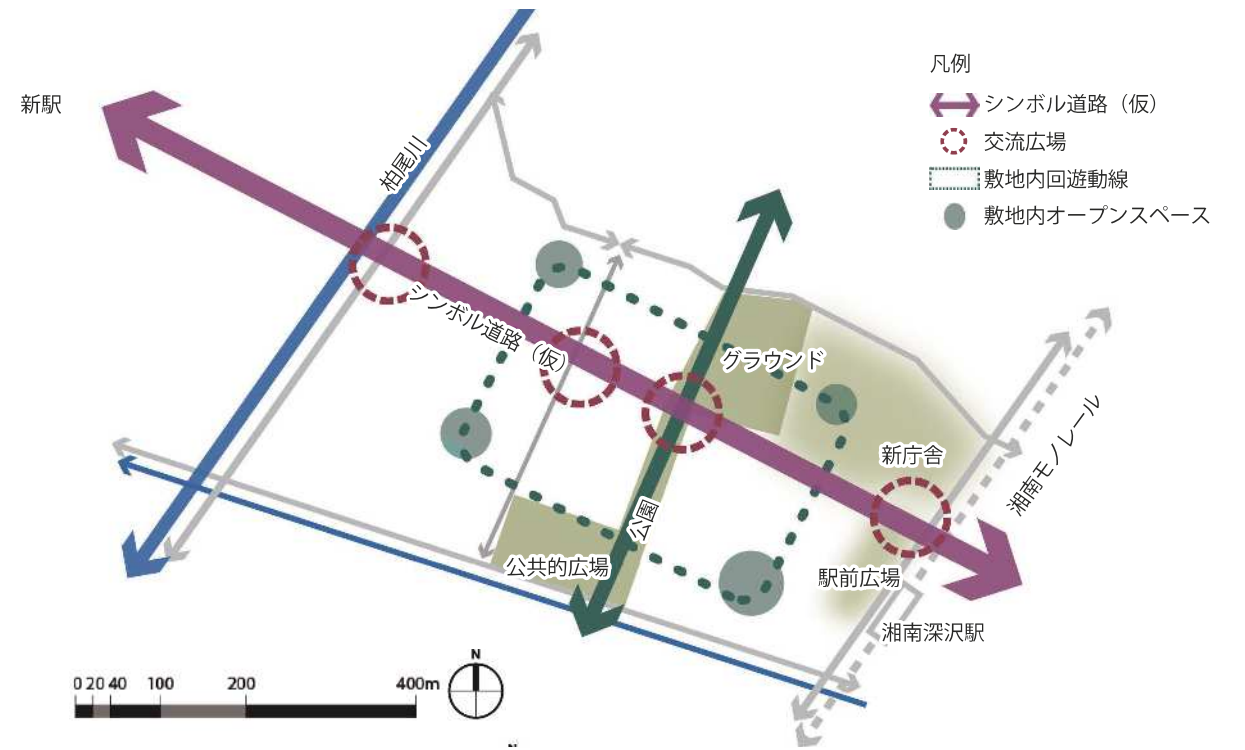
*グリーンインフラ: 自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの。
*タクティカルアーバニズム: 「まずは市民の手で小さなアクションを起こし、長期的な変化やムーブメントにつなげよう」という考え方。

1. まちのコンセプト

1-2. 実現方針（賑わい / 移動 / 防災・環境 / 緑・景観）

まちの骨格

深沢地区では、東西に湘南モノレール湘南深沢駅と JR 東日本東海道本線新駅を結ぶシンボル道路（仮）と南北に公共的な緑地をつなぐ歩行者空間が十字の都市構造を形成します。新庁舎、公共的広場、商業業務、住宅などが混在するまちを十字の骨格動線と歩行者回遊動線でつなぎ、「賑わい」「移動」「防災・環境」「緑・景観」の実現方針により、ウェルネスを実現するウォークラブルなまちを形成します。



賑わい

用途の複合によって都市交流を創出します

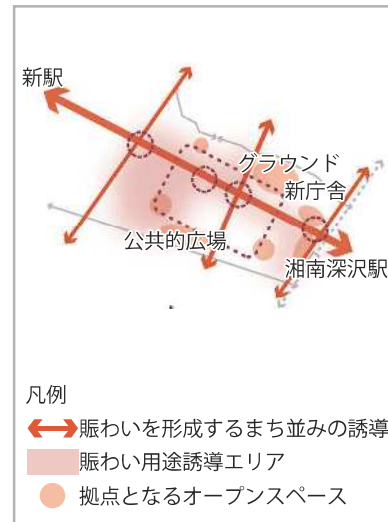
- 多様な用途を複合し、用途間の移動と交流がうまれるようにします
- まちの人々に開いた公共施設と交流空間を創出します

ウェルネス、イノベーション交流を促進する機会を創造します

- スポーツの促進とヘルスケア産業との連携交流による健康の増進を図ります
- イノベーションによる賑わいと交流を創出します

多様な交流や賑わいがうまれる屋外空間を創造します

- 多様な賑わいを形成します
- 回遊性と選択性のある賑わい空間を展開します
- 鎌倉ならではの空間文化を創造します



防災・環境

鎌倉市における防災拠点を形成します

- 官民連携により災害対応拠点を整備します

公共と民間が連携した地震等の自然災害に強いまちづくりを図ります

- 公共と民間が一体となった地域の防災機能を向上します

災害に強いコミュニティをつくります

- 参加型の防災訓練を活用し、災害に強いコミュニティ*を形成します

水害など激甚化する気象災害に対応するレジリエント*なまちを創ります

- 水害に強い基盤をつくります

脱炭素、循環型社会に向けたまちづくりを実現します

- 脱炭素化の実現に向けた目標を設定、建物等の脱炭素化を促進します
- 循環型社会を実現します



移動

安全、安心で歩きやすい歩行環境を形成します

- 快適な歩行者ネットワークを形成します / 回遊ネットワークを創出します
- ユニバーサルデザイン*などを取り入れます

公共交通中心のまちの推進を図ります

- 徒歩と公共交通を中心とする交通ネットワークを形成します
- 両駅間をつなぐ次世代公共交通システムの導入を検討します
- 地区外からの円滑な車両の誘導と歩行者動線に配慮します
- 日常生活の利便性を高めるテクノロジーを活用します

歩きやすいまちを形成するため車交通を抑制します

- シンボル道路（仮）を中心に公共交通を推奨・車の通行を抑制し、歩きやすい歩行環境とスロー交通促進のための環境を整備します



緑・景観

緑の拠点と歩行者ネットワークによって魅力ある緑景観を形成します

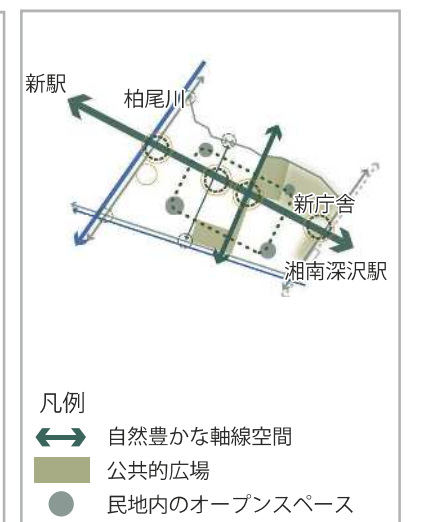
- 緑のネットワークを形成します / 都市の活力を高める緑を創出します
- 自然環境と調和した景観、水辺を活かした親水空間を創出します

周辺の自然豊かな環境と調和した都市景観を形成します

- 周囲の保全緑地と一体となったまとまりのあるスカイライン*を形成します
- 近景、中景、遠景を考慮した眺望景観を創出します

鎌倉の新しい顔としてふさわしいまち並み景観を創出します

- 一体感を創出するまち並みを誘導します
- 周囲と調和する建築を誘導します
- ヒューマンスケール*の緑化を推進します



*コミュニティ：共同の社会生活が営まれる一定の地域、または、その集団。
 *レジリエント：防災分野や環境分野で想定外の事態に対し社会や組織が機能を速やかに回復する強靭さを意味する概念。
 *スカイライン：山や建物などが空を区切って作る輪郭。
 *ヒューマンスケール：程良い人間的な尺度。人間の感覚や行動に適合した、適切な空間の規模やものの大きさのこと。

*ユニバーサルデザイン：障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

1-2. 実現方針



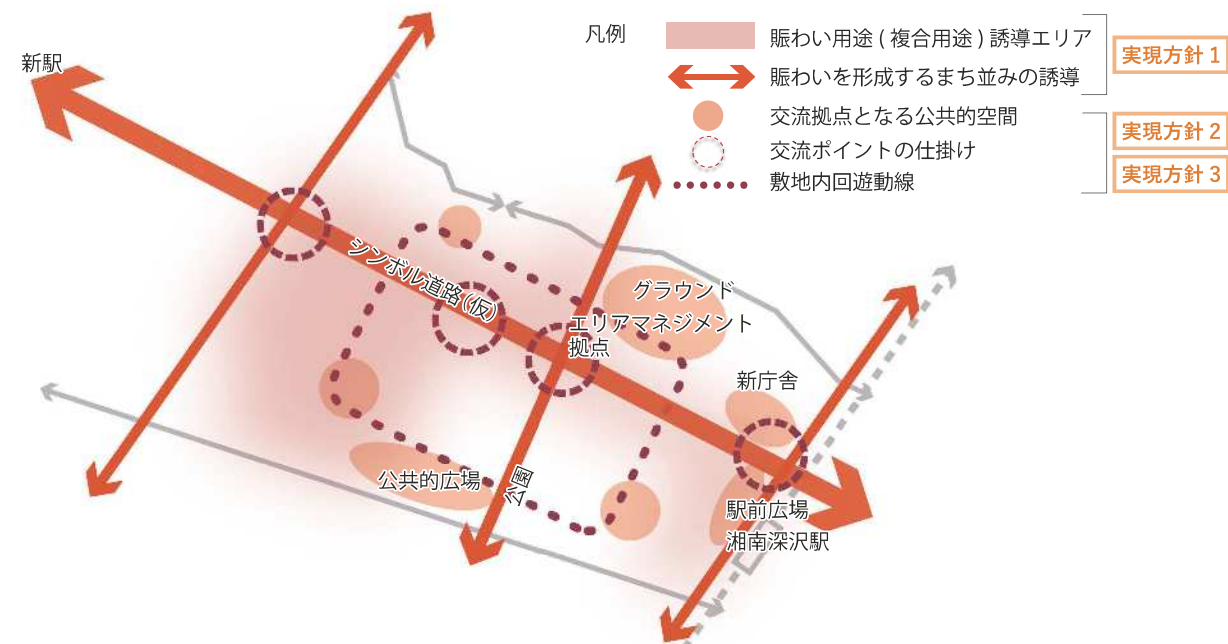
交流がうまれるまち

深沢のまちには、働き、暮らす、遊ぶ場所などが融合した新しい場所ができます。そこでは、自分らしいライフスタイルを実践し、多様な交流や賑わいがうまれます。

- 実現方針 1** 用途の複合によって都市交流を創出します
- 実現方針 2** ウェルネス、イノベーション交流を促進する機会を創造します
- 実現方針 3** 多様な交流や賑わいがうまれる屋外空間を創造します



駅前広場のイメージ



実現方針 1 用途の複合によって都市交流を創出します

多様な用途を複合し、その用途間の移動と交流がうまれるようにします

- ・働く、暮らす、遊ぶことができる様々な用途を複合的に誘導することで、多様な活動が生まれ、自然とその用途間の動きと交流を創出します。

まちの人々に開いた公共施設と交流空間を創出します

- ・多様な世代やまちの内外の人々の交流を促進する公共施設をシンボル道路(仮)沿いやオープンスペースと連携して整備し、賑わいを形成します。

実現方針 2 ウェルネス、イノベーション交流を促進する機会を創造します

スポーツの促進とヘルスケア産業との連携交流による健康の増進を図ります

- ・いつでもどこでもスポーツに親しむことができる環境を創出します。
- ・スポーツやヘルスケア関連のイベントなど、気軽に健康づくりに親しめる機会や場をつくります。
- ・住民が主体となり、公共空間を利活用できる仕組みをつくります。



芝生広場でのヨガイベント

イノベーションによる賑わいと交流を創出します

- ・周辺の立地企業と連携し、ヘルスケア関連産業のイノベーションを促進する交流拠点を整備します。
- ・用途の複合化、屋内外の交流拠点整備により、人的資源を活かした新たなコミュニティ形成とイノベーションを創造します。



鎌倉リビングラボ

実現方針 3 多様な交流や賑わいがうまれる屋外空間を創造します

活気に満ちた賑わいを形成します

- ・シンボル道路(仮)沿いなどでは、低層部に賑わい用途を誘導します。
- ・賑わいを演出し、個性的で、魅力的な都市景観を形成します。
- ・建物とオープンスペースが連続する賑わいを形成します。
- ・官民連携により、賑わい空間を確保します。
- ・徒歩圏内に多様な都市機能を複合し、ウォーカブルなまちを形成します。



賑わい空間のイメージ

回遊性と選択肢のある賑わい空間を展開します

- ・地区内外をつなげて回遊性を生み出すとともに、それぞれの特性の異なる賑わいの空間を誘導します。

鎌倉ならではの空間文化を創出します

- ・ヒューマンスケールや界索性など、伝統的で親密な空間構成の継承を図ります。



界索性のある歩行空間

重要ポイント①交流がうまれるウォーカブルなまち

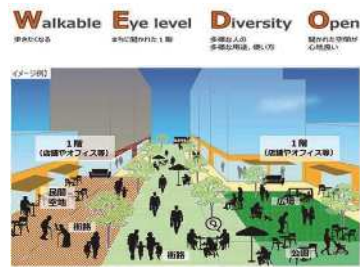
ウォーカブルとは

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」
 …歩きたくなる／まちに開かれた1階／多様な人の多様な用途、使い方／開かれた空間が心地よい

現在、人口減少や少子高齢化が進み、商店街のシャッター街化などによる地域の活力の低下が懸念される中、都市の魅力向上させ、まちなかににぎわいを創出することが、多くの都市に共通して求められています。このため、「都市再生特別措置法等の一部を改正する法律（令和2年法律第43号）（令和2年9月7日施行）」により、市町村が、まちなかにおける交流・滞在空間の創出に向けた官民の取組をまちづくり計画に位置付けることができるようになりました。

出典：「まちなかウォーカブル推進プログラム」（国土交通省）
<https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001487293.pdf>

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりのキーワード



深沢地区で目指すウォーカブル

鎌倉らしい空間特性の取り入れ

鎌倉らしい空間特性を取り入れ、親しみやすく居心地の良い歩行空間を形成します。

シンボル道路（仮）

様々な活動が展開され賑わいの中心となるシンボル道路（仮）には、街路樹による象徴的な空間特性を取り入れます。



街路樹による象徴的な街路景観（若宮大路）



緑豊かな街路景観（若宮大路）

柏尾川沿い空間

柏尾川沿いの開けた空間には、歩行空間に対して連続する、開かれた沿道景観を取り入れます。



海辺まで連続する開かれた沿道景観（若宮大路）



歩行空間に対して開かれた沿道景観（若宮大路）

敷地内回遊動線

グラウンド、公園、調整池をつなぐ敷地内の回遊動線には、水や緑といった自然に触れながら散策できる歩行空間や、建物の表情を感じられる小路空間を取り入れます。



連続する水と緑の歩行空間（岩瀬）



建物の表情を近距離で感じられる小路（小町通り）

歩行と多様な移動手段の連携

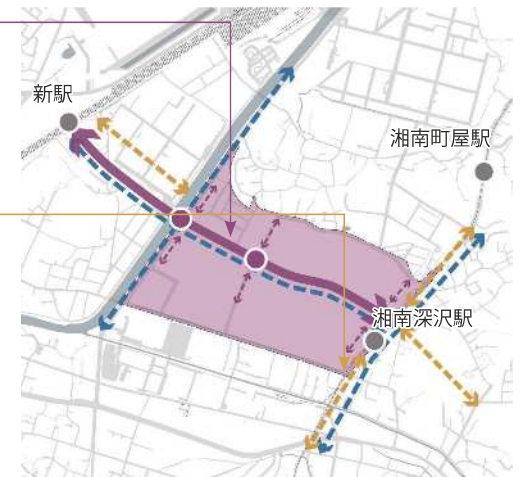
歩行者ネットワークと車両動線の交点を中心にモビリティハブ*を設けることで、多様な移動手段から歩行への円滑な乗り換えが可能になり、地区内外の人々の移動を促進します。

①地区内移動

- ・地域内へのラストワンマイル*移動を支援するパーソナルモビリティ*導入
- ・歩行者ネットワークとの連携

②地区外移動

- ・周辺緑地や観光資源への移動を円滑にするシェアモビリティの導入
 - …丘陵地移動に適した電動アシスト自転車等
- ・鎌倉駅や新駅などの交通拠点と連携したシェアモビリティ・公共交通の導入
 - …電気自動車、自動運転バス等



シンボル道路（仮）
 自転車ネットワーク
 モビリティハブ



電動キックボード



シェアサイクル

ウォーカブルなまち鎌倉が持つ魅力や可能性

緑豊かな山稜に囲まれた中に広がる市街地には、参道などの歴史的古道、細街路、山稜部にはハイキングコースが巡らされており、市内には、自然散策や歴史散策が楽しめる多様な歩行ネットワークが形成されています。また、駅周辺には、日常生活サービスに必要な店舗や文化施設など、都市生活が豊かに過ごせる環境が整っています。

豊かな自然環境とまちなかの都市の魅力が共存する鎌倉市は、潜在的にウォーカブルの都市特性を持っています。



谷戸の小径



ハイキングコース



鎌倉エリアの緑地分布・15分徒歩圏図

*モビリティハブ：バス停留所、カーシェアリング、自転車シェアリング等を備え、多様な移動サービスを提供する拠点のこと。
 *ラストワンマイル：最寄り駅やバス停と自宅あるいは目的地の間の短距離や特定の敷地内等比較的狭い範囲内の移動を指す。
 *パーソナルモビリティ：一人または二人乗りの小型の移動機器。電動バイク、原動機付き自転車なども含まれる。

1-2. 実現方針



歩きたくなるまち

鎌倉は、良好な景観、開かれた店舗、適度なスケール感による路地が、歩くまちをつくりだしています。加えて、緑の回廊で結ばれた神社仏閣等が鎌倉らしい風景を育み、歩いて回遊できるまちを形作っています。

深沢でも、緑のつながりを意識しながら、多様性のあるまち並み、新たなモビリティの導入、集える広場で形作る魅力的な風景で歩きたくなるまちを広げていきます。

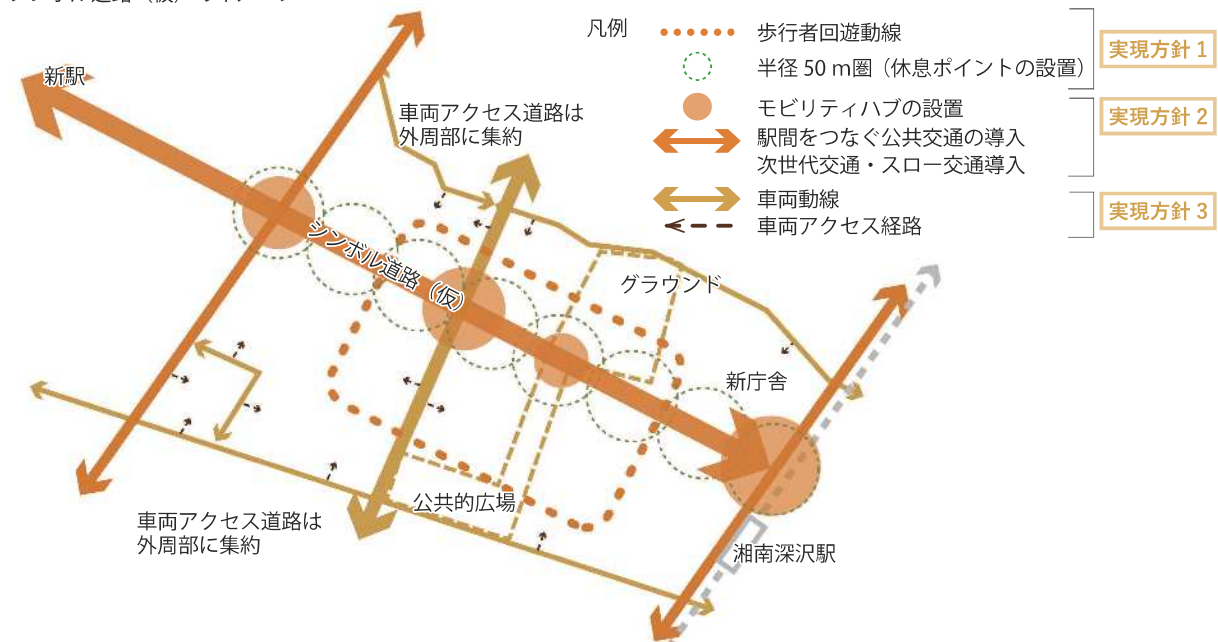
実現方針 1 安全、安心で歩きやすい歩行環境を形成します

実現方針 2 公共交通中心のまちの推進を図ります

実現方針 3 歩きやすいまちを形成するため車交通を抑制します



シンボル道路（仮）のイメージ



実現方針 1 安全、安心で歩きやすい歩行環境を形成します

快適な歩行者ネットワークを形成します／回遊ネットワークを創出します

- 歩行者動線への配慮により、歩きやすさを確保します。
- 車両動線を外周道路にまとめることで、地区内への車両流入を抑制し、安全で快適な歩行環境を実現します。
- 街区内通路を設けることで、地区内の回遊性を確保します。

ユニバーサルデザインなどを取り入れます

- 官民連携して、全てのオープンスペースにおけるユニバーサルデザインの導入に努めます。



オープンスペースのイメージ



オープンスペースのイメージ

実現方針 2 公共交通中心のまちの推進を図ります

徒歩と公共交通を中心とする交通ネットワークを形成します

- 地区内交通の利便性向上のため、スロー交通の導入を検討します。

両駅間をつなぐ次世代公共交通システムの導入を検討します

- 地区外部と湘南深沢駅など地区内主要拠点を結ぶ、次世代交通の導入を検討します。

地区外からの円滑な車両の誘導と歩行者動線に配慮します

- 駅前広場等の拠点にモビリティハブ（鉄道、バス、スロー交通等の接続点）を整備します。



公共交通中心のまちのイメージ



モビリティハブのイメージ

日常生活の利便性を高めるテクノロジーを活用します

- 福祉施設と連携した、地域課題解決型 MaaS* の導入を検討します。
- 多様な交通手段を一元管理する MaaS の導入を検討します。
- データ登録による顔認証乗車や事前決済などにより、公共交通の利便性の向上を図ります。

実現方針 3 歩きやすいまちを形成するため車交通を抑制します

シンボル道路（仮）を中心に公共交通を推奨、車の通行を抑制し、歩きやすい歩行環境とスロー交通促進のための環境を整備します

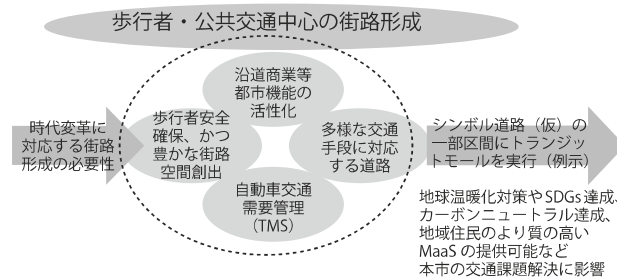
* MaaS：複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせ検索、予約、決済を一括で担うサービス。

重要ポイント②ウォーカブルなまちとトランジットモール*

(トランジットモールの定義及び整備・運用イメージ含む)

社会的・技術的な背景

マイカー時代から多様な交通手段、公共交通と連携した MaaS 時代への変化が予想される中、この地域での交通課題解決は、本市全体の交通課題解決モデルとして働くことが期待されます。



トランジットモールの定義及び先進事例の紹介

トランジットモールの定義

自動車通行を抑制、もしくは排除し、公共交通や歩行者を優先とした街路です。アメリカから生まれた概念で、車社会であるアメリカの都心部の共同化を改善し活性化を図るため、導入されました。

ヨーロッパでは、都心の車交通を排除して整備した歩行者モールに、後からトラム等の公共交通のみが通行できるようになり、生まれた空間です。

歩行者に快適な歩行環境を提供すると共に、隣接する都市機能の活性化にも貢献できる街路形態です。



先進事例（アメリカ、ヨーロッパ、日本）

アメリカでは、都心共同化改善のため、中心商業地活性化・歩行者優先かつ公共交通中心のモールを整備し、多くの場所で成功しています。ミネアポリスのニコレットモールを始め、ウォーカブルなまちとして生まれ変わったことで知られているポートランドやデンバー等、中規模の都市の中心部の活性化につながった整備事例が多くあります。

ヨーロッパでは、元々歩行者空間にトラムが導入されることが多く、歴史的な地区の保全などにもよく使われています。日本での本格的なトランジットモールの事例はまだ少なく、元々の道路基盤の貧弱性や住民反対により普及されにくい状況です。その中でも社会実験や、商店街モールの中でのコミュニティバス*運行など、日本の道路、街路の実情に合わせた事例が多数あります。

交通改革を踏まえた道路空間、街路の将来イメージ



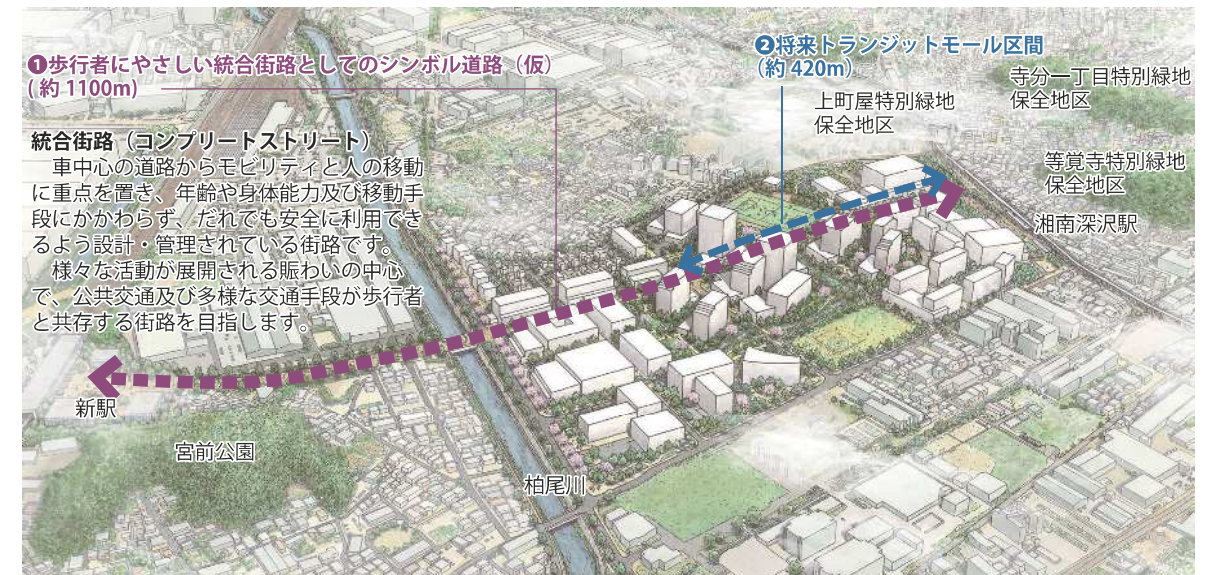
出典：「2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～」(国土交通省) (<https://www.mlit.go.jp/road/vision/pdf/01.pdf>)

*トランジットモール：歩行者と公共交通機関中心の道路とし、歩行の安全性の向上、にぎわいの創出などを図る空間。
*コミュニティバス：乗合型の地域公共交通や、地域住民の多様なニーズにきめ細かく対応する地域密着型バスなどを指す。

深沢地区で目指すトランジットモールのイメージ

公共交通中心のまちを実現するためのトランジットモール

まち全体の公共交通利用を促すためには、湘南モノレール湘南深沢駅と JR 東日本東海道本線新駅からのラストワンマイル交通を、公共交通で充実させる必要があります。また、シンボル道路（仮）の賑わいを推奨するためにも車交通を抑制し、より歩行者に寄り添った街路環境、交通環境を整備する必要があります。



シンボル道路（仮）のトランジットモール化のイメージ

自転車を含む多様なパーソナルモビリティとスロー交通通行



シンボル道路（仮）の時間帯別の運用イメージ

ピーク時外



ピーク時



物流利用時間帯



一般道路からトランジットモール化への段階的な利用変化イメージ

一般車交通と公共交通が混在している状況から、時間帯別の利用や、全面公共交通専用区間としての社会実験などを繰り返すことで、利用者の意識を転換し、最終的には歩行者と公共交通が中心となる安全で快適な街路に更新していきます。

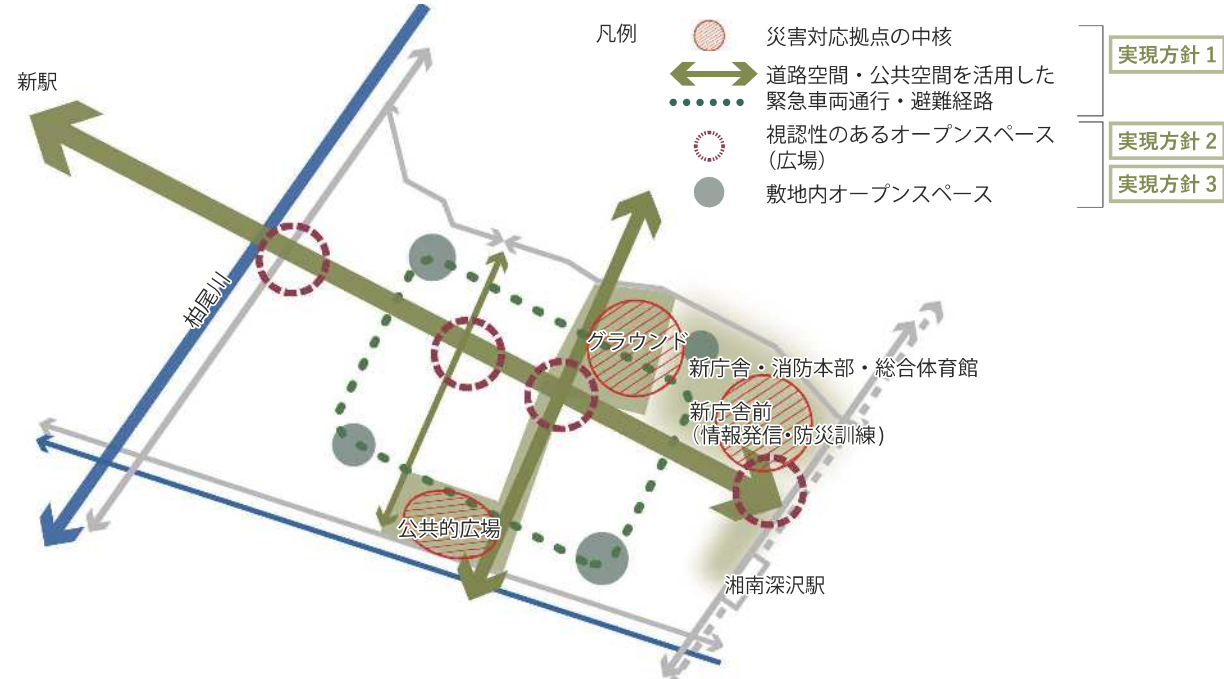
1-2. 実現方針



「生命」にやさしいまち

「ひと」と「環境」にやさしいまちには、安全で安心できる暮らしがあります。ひととひとの絆は、まちのコミュニティを形成し、災害時の連携にもつながります。みんなで地球環境の未来を考え、生活を営んでいく。環境と共生するやさしいまちづくりは、ゆとりや幸せを享受できます。

- 実現方針 1** 鎌倉市における防災拠点形成します
- 実現方針 2** 公共と民間が連携した、地震等の自然災害に強いまちづくりを図ります
- 実現方針 3** 災害に強いコミュニティをつくります



実現方針 1 鎌倉市における防災拠点を形成します

官民連携により災害対応拠点を整備します

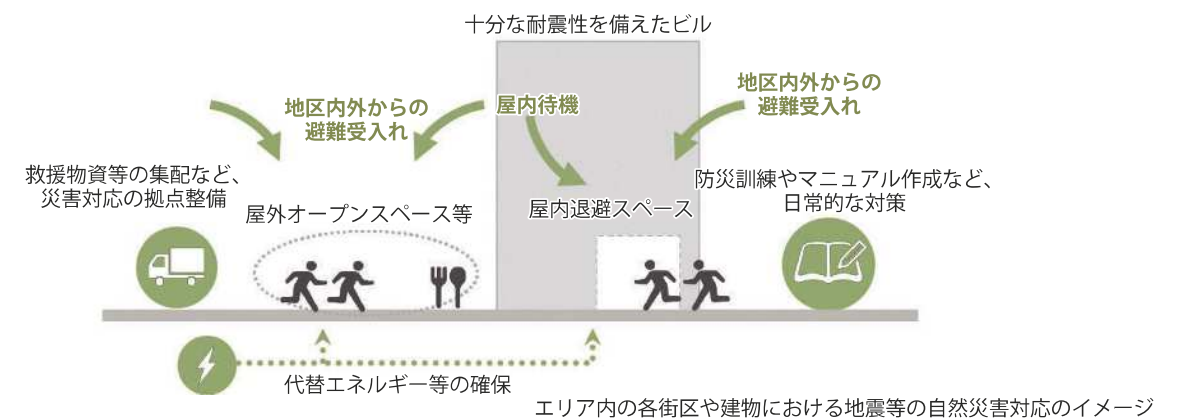
- 地震等の自然災害発生時にスムーズに逃げ込むことができる空間を確保するとともに、地区内外の関係機関と密に連携して災害対応力の強化を図ります。
- 新庁舎においては「鎌倉市新庁舎等整備基本計画」等に基づいて全市に対する防災拠点機能を整備し、隣接するグラウンドや道路なども活用しながら災害対応にあたることを想定します。



実現方針 2 公共と民間が連携した、地震等の自然災害に強いまちづくりを図ります

公共と民間が一体となった地域の防災機能を向上します

- 地区内の住民や働く人が迅速に身を守ることができるように、道路や公園などの屋外空間に加えて建物の中にも退避できるスペースを確保し、最新の耐震性を確保することや十分な備蓄品を用意することとします。
- ライフラインの断絶も想定して、代替エネルギーや中水利用設備の導入などにより、一定期間自立可能なライフラインを確保します。
- 日常的な防犯対策なども実施し、地区全体が安心して安全な環境の創出を図ります。



実現方針 3 災害に強いコミュニティをつくります

参加型の防災訓練を活用し、災害に強いコミュニティを形成します

- 災害発生時に連携が必要となる近隣自治体や医療機関などと事前に連携方法を確認し、地区内に入居する企業などとも協力協定を締結するなど、災害に備えます。
- 定期的に防災訓練を実施することを原則として、防災教育の実施、イベントの開催やマニュアルの作成など、日常的に防災を意識した地区内のコミュニティ醸成を兼ねた対策に取り組みます。
- デジタル技術を活用した円滑な情報連携システムの構築にも努め、人と人のつながりによるソフト面の対策を強化します。



1-2. 実現方針



「生命」にやさしいまち

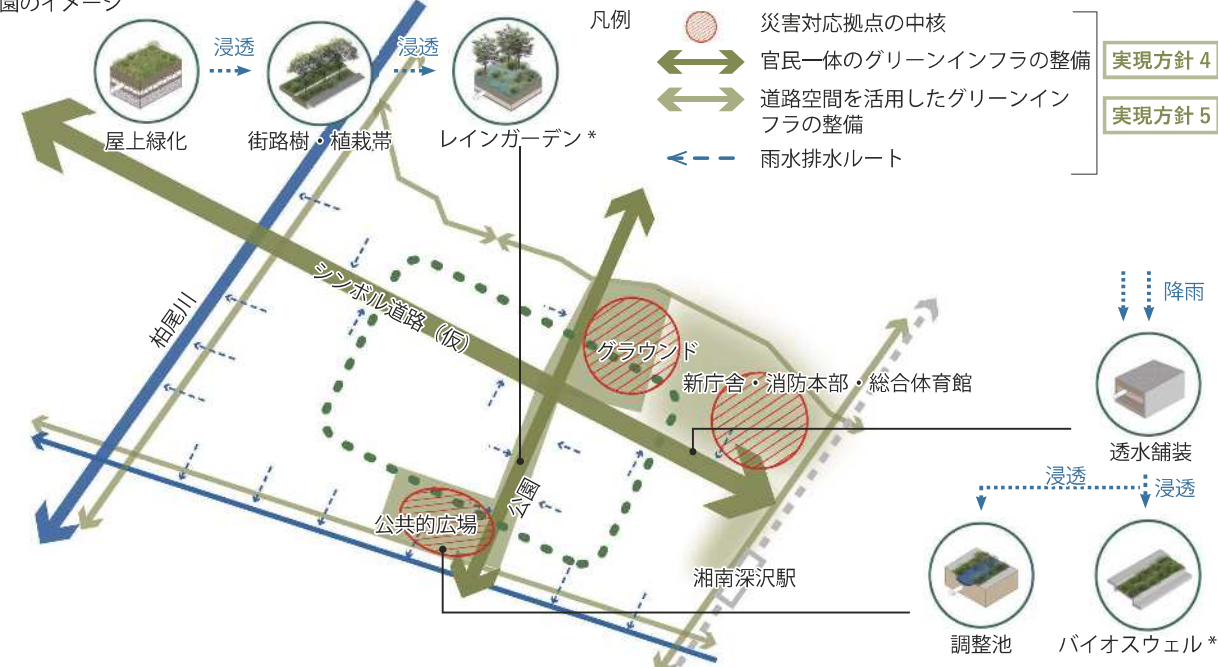
「ひと」と「環境」にやさしいまちには、安全で安心できる暮らしがあります。ひととひとの絆は、まちのコミュニティを形成し、災害時の連携にもつながります。みんなで地球環境の未来を考え、生活を営んでいく。環境と共生するやさしいまちづくりは、ゆとりや幸せを享受できます。

実現方針 4 水害など激甚化する気象災害に対応するレジリエントなまちを創ります

実現方針 5 脱炭素、循環型社会に向けたまちづくりを実現します



公園のイメージ

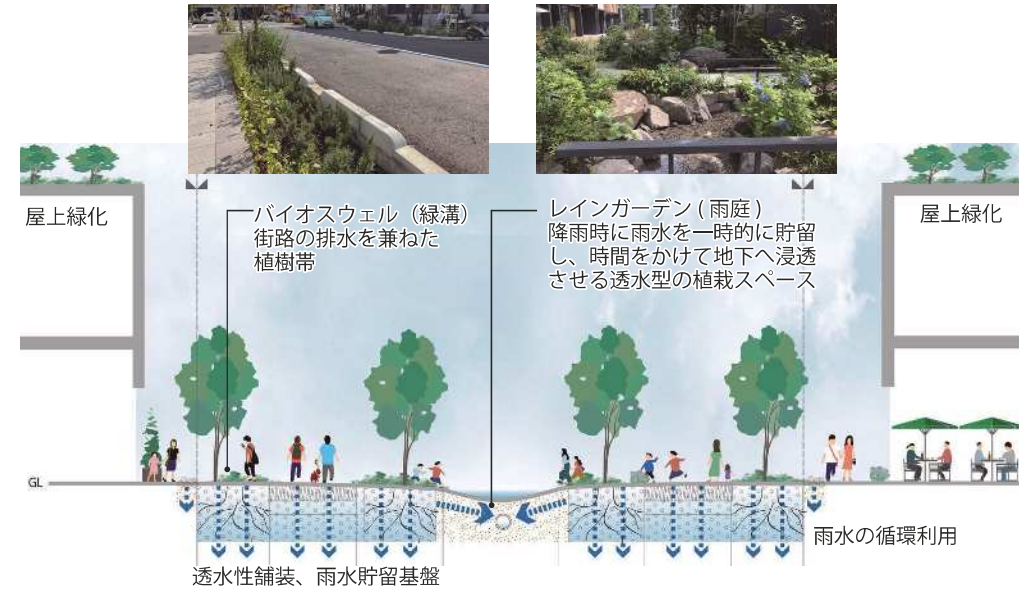


*レインガーデン：降雨時に雨水を一時的に貯留し、時間をかけて地下へ浸透させる透水型の植栽スペースのこと。雨庭。
*バイオスウェル：浸透、流出抑制機能を担う雨水浸透型の緑地帯。緑溝。

実現方針 4 水害など激甚化する気象災害に対応するレジリエントなまちを創ります

水害に強い基盤をつくります

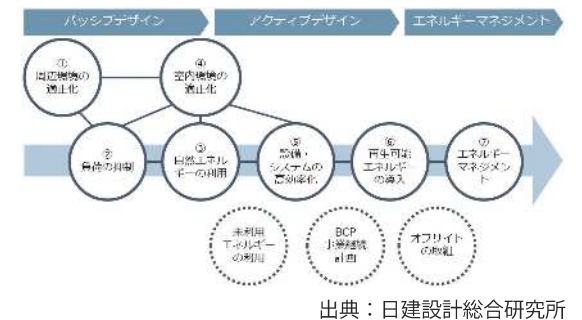
- ・ 公共空間を主体とし、グリーンインフラの充実を図り、ネットワーク化します。
- ・ レインガーデンやバイオスウェルなど雨水貯留基盤、生態系ネットワークの構築を図ります。



実現方針 5 脱炭素、循環型社会に向けたまちづくりを実現します

まち全体で脱炭素化の実現に向けた目標を設定します

- ・ 深沢地区の目標を定め、まち全体で取り組みます。
- ・ 行政施設や主要施設における ZEB* や ZEH* 認証などの取得を目指します。

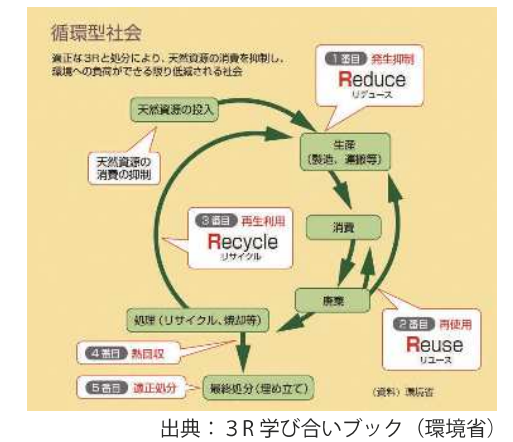


建物等の脱炭素化を促進します

- ・ 建物等の脱炭素化の手法として、①パッシブデザイン* (建築的手法) ②アクティブデザイン* (設備的手法)、③エネルギーマネジメント* (運用段階の手法) を複合的に採用します。

循環型社会を実現します

- ・ 3R (ごみの発生を減らす・繰り返し使う・資源として再利用する) + リニューアブル (バイオマス化等) を実行します。



* ZEB: エネルギーを自給自足し、化石燃料などから得られるエネルギー消費量がゼロ、あるいは、おおむねゼロ、となる建築物のこと。
* ZEH: 再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを旨とした住宅のこと。
* パッシブデザイン: 建物を取り巻く自然環境の特性を活かし、室内を快適にするための設計手法。
* アクティブデザイン: 冷暖房設備や照明器具などを効率的に組み合わせることにより、快適な室内環境をつくり出すことを旨とするもの。
* エネルギーマネジメント: エネルギー使用を見える化し、効率的に使用するための企業や個人、地域の活動を指す。

重要ポイント③グリーンインフラが支えるまち

グリーンインフラの定義

グリーンインフラとは、自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、地域課題に対応していくことを通して、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるものです。

具体的な方策例の一つとして、自然保水や排水能力を失ってきた中で、水循環を考慮した持続的な雨水管理能力を高めることにより、激しく変化する気候、特に豪雨から地域を守る基盤整備等があります。



グリーンインフラの効果（まちにやさしい、地球にやさしい、生物と人々にやさしい）

保水や水害抑制効果によるまちのレジリエンスを達成

自然保水、排水ができる環境を多く整備し、ネットワークを整備することで、地域全体を水害から守る効果達成ができます。

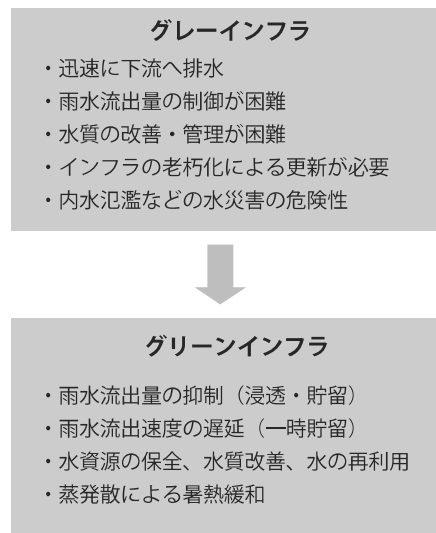
CO2 排出量低減効果

樹木による CO2 削減効果

幹周 40cm のケヤキの場合、年間約 180kg の CO2 を固定することが可能（0.5kg/日）であります。

例）シンボル道路（仮）、街区道路の沿道に幹周 40cm のケヤキを植樹した場合、166 本 × 180kg = 年間約 30,000kg の CO2 を削減する効果が予想されます。

出典：樹木植栽による炭酸ガス固定の効果 ヒートアイランド現象緩和に向けた都市づくりガイドライン（国土交通省）



地球温暖化対策と微気候*への影響

環境省が実施した緑化によるヒートアイランドの低減効果調査によると、日最低気温にして 1℃の気温上昇抑制を目標として対策手法を選定する場合、駐車場など敷地のコンクリートを緑化（敷地面積に対して約 25%）することで約 0.7℃、歩道などのアスファルトを保水化（敷地面積に対して約 20%）することで約 0.3℃、合計 1℃程度、低下することが期待されます。

出典：ヒートアイランド対策ガイドライン平成 24 年度版（環境省）

憩い、潤いの場を創出しウェルネスの実現や人々の交流を促進

自然豊かな環境は、生物多様性に寄与するとともに、人々の生活に憩いと潤いをもたらす、交流を促進します。



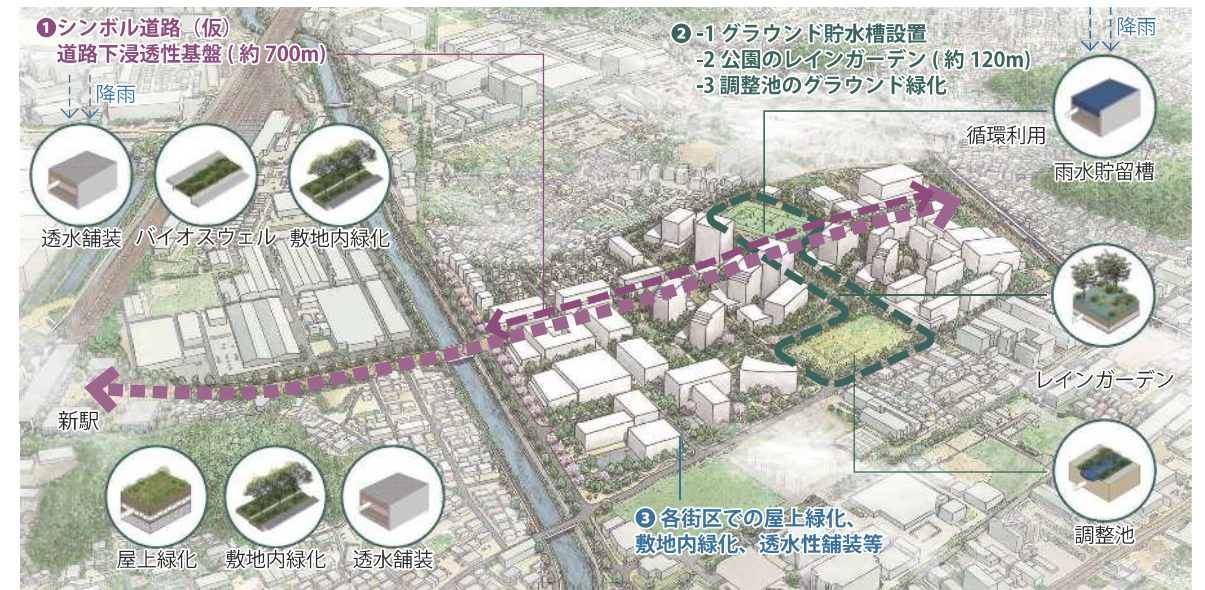
公園に設置したレインガーデンのイメージ

*微気候：地面近くの気層の気候。地表面の状態や植物群落などの影響を受けて、細かい気象の差が生じる。

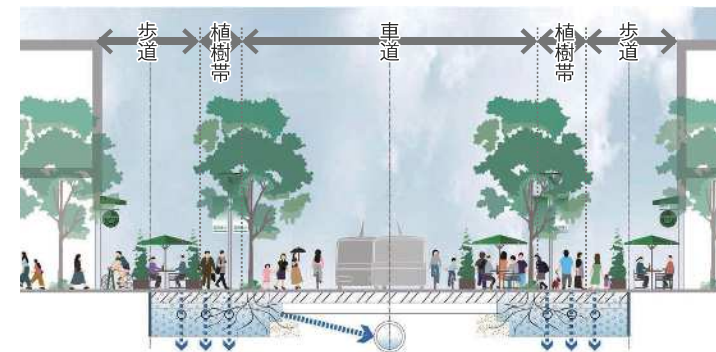
深沢地区で目指すグリーンインフラのイメージ

ネットワークされたグリーンインフラが支えるまち

公共空間を中心に、地区全体にグリーンインフラによるネットワークを整備し、地震等の自然災害や水害等の気象災害に強い基盤を形成します。

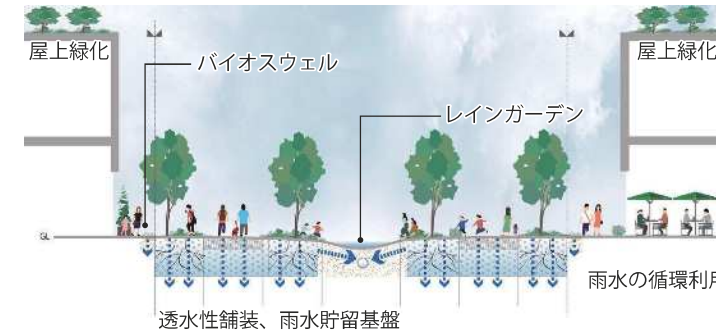


①グリーンインフラとしてのシンボル道路（仮）



バイオスウェル（緑溝）：街路の排水を兼ねた植樹帯

②-2 緑道のレインガーデン（約 120m）



レインガーデン（雨庭）：降雨時に雨水を一時的に貯留し、時間をかけて地下へ浸透させる透水型の植栽スペース

1-2. 実現方針



水とみどりに囲まれたまち

背景となる良好な自然環境と魅力的なデザインの建物が調和した景観を形成します。

鎌倉がこれまで大事にしてきた景観を継承しながらも、新たな拠点にふさわしく、鎌倉の新しい顔として、新たな一面を感じられるまち並みをつくります。

実現方針1 緑の拠点と歩行者ネットワークによって魅力ある緑景観を形成します

実現方針2 周辺の自然豊かな環境と調和した都市景観を形成します

実現方針3 鎌倉の新しい顔としてふさわしいまち並み景観を創出します



交流広場のイメージ

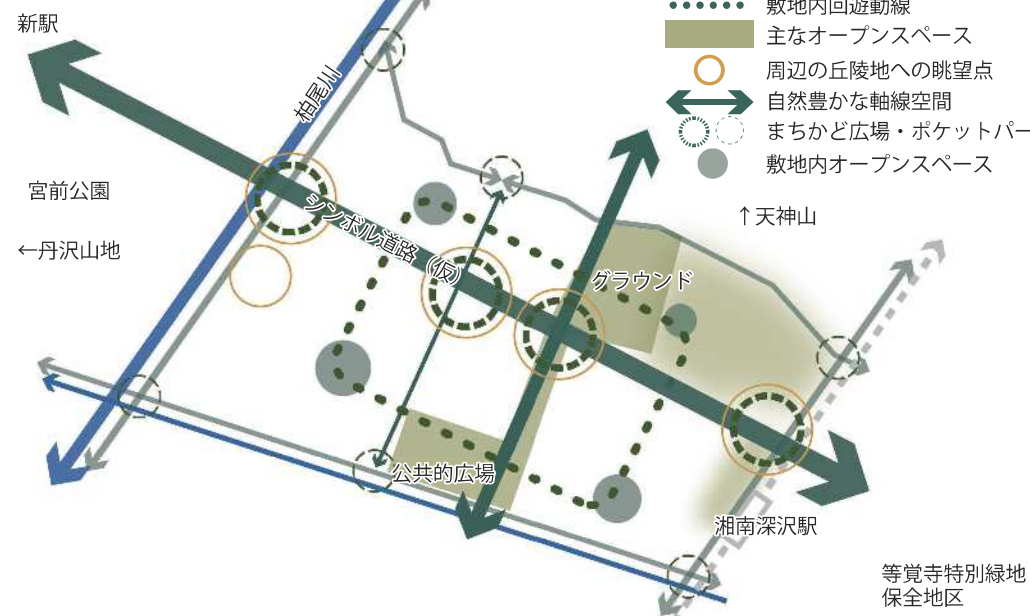
凡例

- 街路ににじみ出す敷地内緑化の促進
- 敷地内回遊動線
- 主なオープンスペース
- 周辺の丘陵地への眺望点
- 自然豊かな軸線空間
- まちかど広場・ポケットパーク*
- 敷地内オープンスペース

実現方針1

実現方針2

実現方針3



*ポケットパーク：ポケットのように小さい規模の広場のこと。

実現方針1 緑の拠点と歩行者ネットワークによって魅力ある緑景観を形成します

緑のネットワークを形成します／都市の活力を高める緑を創出します

- ・ 地区内外と連続する緑を創出し、新たな景観資源を創出します。
- ・ 官民一体となった連続するオープンスペースにより、居心地がよく、歩きたくなる環境を演出します。



【地区内外と連続する新たな緑の創出】
出典：航空写真 GoogleEarth



自然環境と調和した景観を形成します

- ・ オープンスペースや街路空間などの緑化により、等覚寺特別緑地保全地区などの周辺緑地や、柏尾川などの自然環境と調和する景観を形成します。

水辺を活かした親水空間を創出します

- ・ 柏尾川沿いなど、水辺と調和する空間の創出を図ります。

実現方針2 周辺の自然豊かな環境と調和した都市景観を形成します

周囲の保全緑地と一体となったまとまりのあるスカイラインを形成します

- ・ 地区内では、各通りにふさわしいスカイラインを形成します。
- ・ 丘陵地から柏尾川への地形に沿ったスカイラインを形成します。
- ・ 地区の中心部と周辺のまち並みがなじむような緩やかなスカイラインを形成します。

近景、中景、遠景を考慮した眺望景観を創出します

- ・ 近景、中景、遠景を考慮し、地区内から周辺緑地や丹沢山地、柏尾川に向けた視点場（眺望景観）を確保します。

実現方針3 鎌倉の新しい顔としてふさわしいまち並み景観を創出します

一体感を創出するまち並みを誘導します

- ・ 街路樹や敷地内緑化の樹種の選定は、周辺緑地の植生を意識し誘導することにより、一体感のある景観形成を実現します。
- ・ まちのコンセプトにふさわしい屋外広告物を誘導します。

周囲と調和する建築を誘導します

- ・ 建物は、色彩、素材、デザインを周囲と調和するよう配慮します。
- ・ アイスストップを意識した、壁面線位置の制限を検討します。

ヒューマンスケールの緑化を推進します

- ・ 鎌倉らしさを感じさせる、自然環境と調和した空間の形成を図ります。